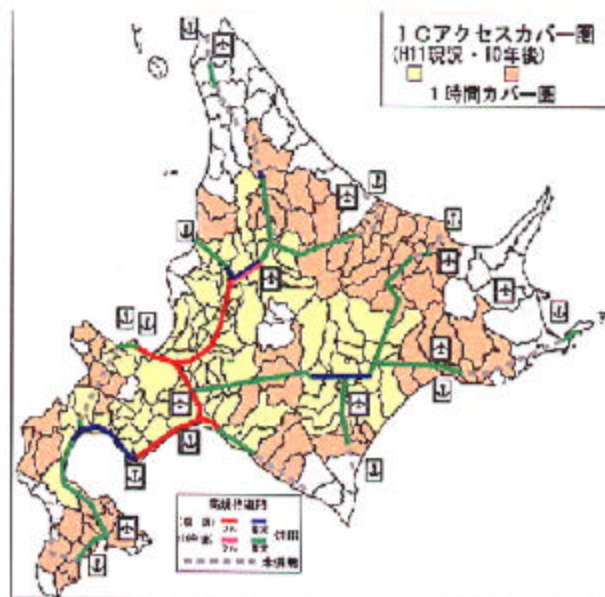


事業効果に関する資料（北海道）

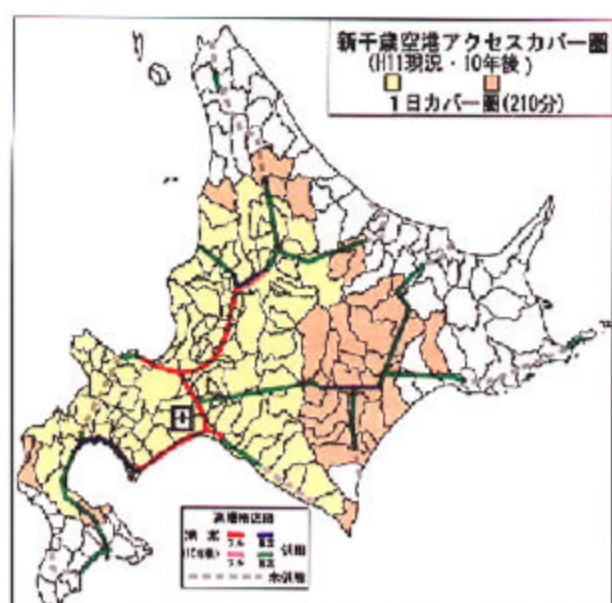
ICアクセス1時間カバー圏の拡大

地域間交流を促進し、空港・港湾の効率的な利用を図るため、高規格幹線道路のIC等へ1時間以内にアクセスできる地域の面積カバー率を、36.6%から概ね10年後には75.3%に拡大します。



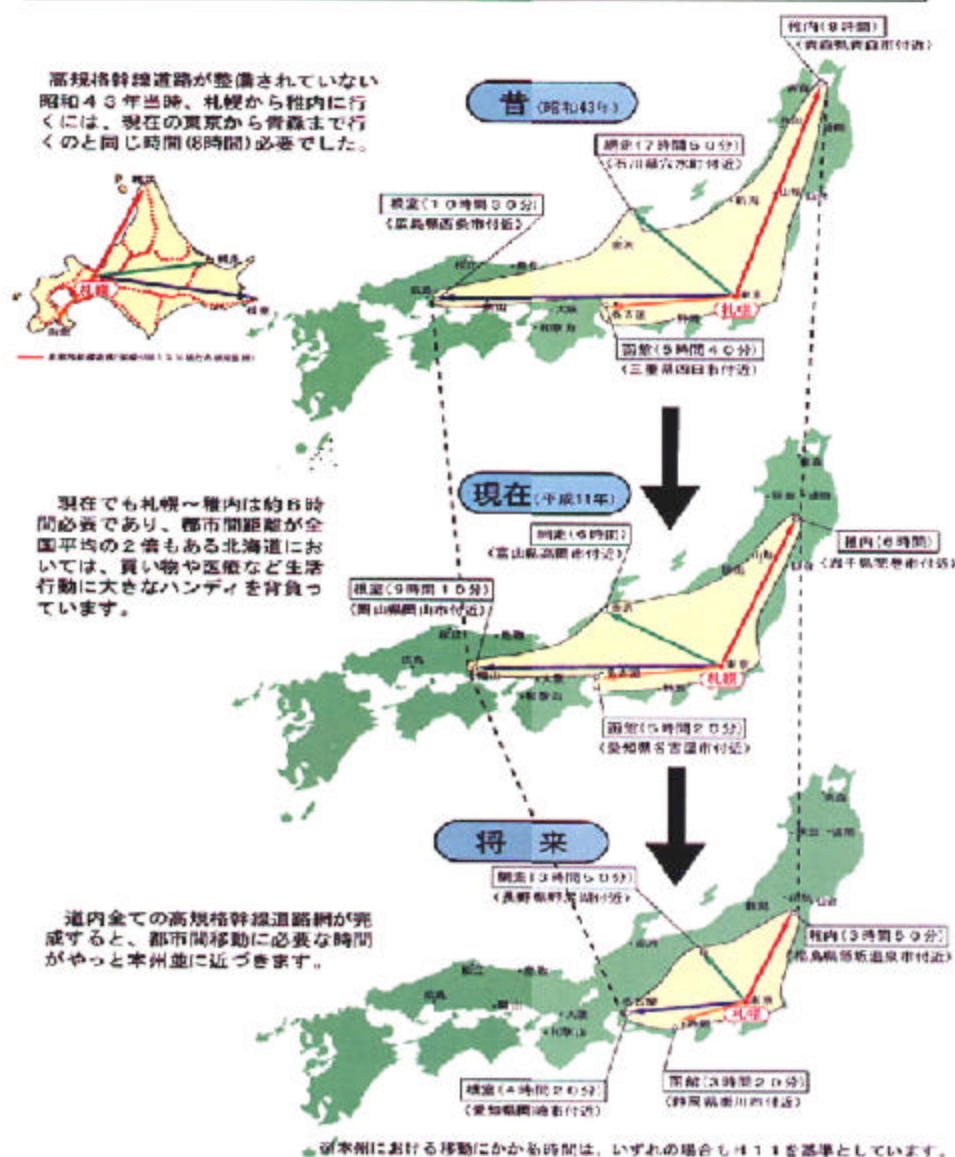
観光地へのアクセスの向上

高速ネットワークの整備により、北海道観光の玄関口であり国際空港を持つ新千歳空港からの1日行動圏が、面積カバー率（北海道の面積に対する比率）で、42.5%から概ね10年後には62.6%へと増加し、北海道観光の推進及び国際交流機会の増加に寄与します。



広域分散社会に対応した高規格幹線道路の整備

高規格幹線道路が整備されていない昭和43年当時、札幌から稚内に行くには、現在の東京から青森まで行くのと同じ時間(8時間)必要でした。



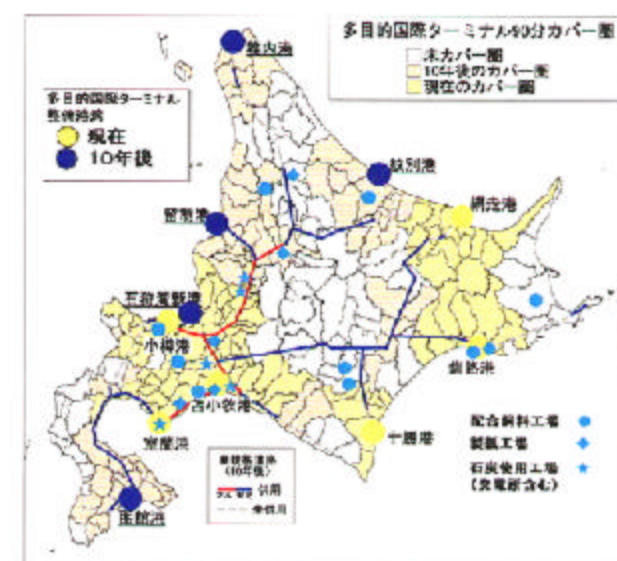
道内全ての高規格幹線道路網が完成すると、都市間移動に必要な時間がやっと本州並に近づきます。

※本州における移動にかかる時間は、いずれの場合も4:1を基準としています。

港湾・高規格幹線道路網の整備による物流の効率化

現在から10年後までの多目的国際ターミナルの整備により、バルク系の貨物の物流コストを年間約180億円削減できます。

輸入原材料に依存している基幹産業が広域的に分散立地している北海道では、物流コストを削減するため、半日往復圏(90分以内アクセス圏)の面積カバー率を拡大することが重要です。現在のところ33%ですが、高規格幹線道路網の整備と合わせて、10年後には北海道全体の63%にします。

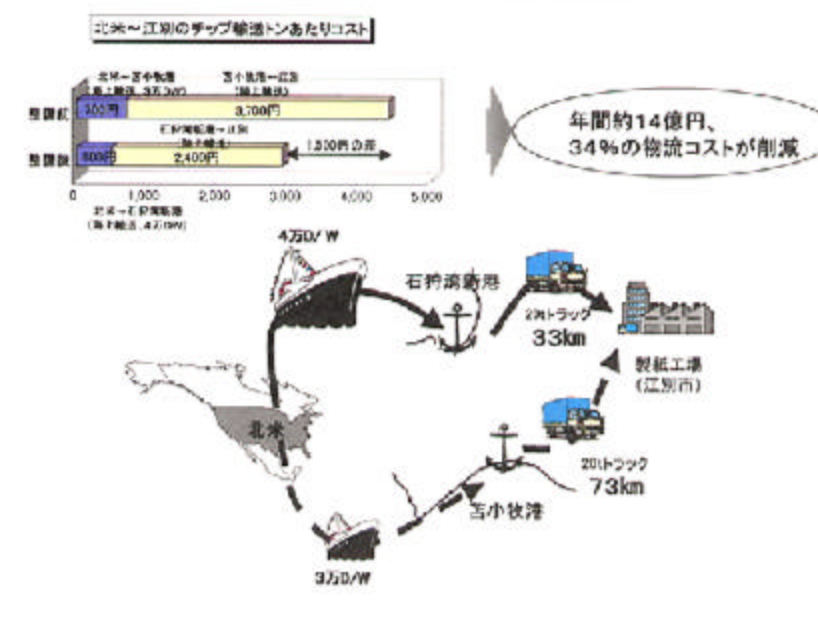


原材料輸入のための多目的国際ターミナルの半日往復圏

物流コスト削減例(石狩湾新港)

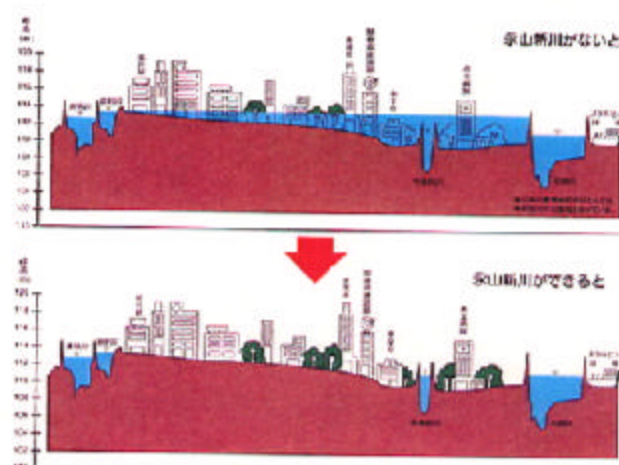
石狩湾新港で整備を進めている多目的国際ターミナルが完成すれば、紙等の原料となるチップや石炭などを大量かつ安価に輸入することが可能となります。このうちチップ輸送を例に取ると、陸上輸送距離の短縮と船舶の大型化により、1トンあたり1500円、すなわち34%の物流コストが削減されます。

石狩湾新港14m岸壁が整備された場合の物流コスト削減効果の例(チップ)



安全な地域社会の形成

牛朱別川分水路(永山新川)により、牛朱別川上流の洪水を旭川市街地をバイパスして、直接、石狩川へ流すことにより、旭川市中心部の洪水被害を軽減し、安心して暮らせる地域をつくります。



水環境の保全・復元・創出

北海道の美しさ、雄大さを次世代へ引き継ぐため、健全な水循環系や水辺環境の保全・復元・創出をおこないます。

